

第7回野鳥園臨港緑地干潟湿地環境保全事業委託アドバイザーボード 議事概要

1. 日 時

平成29年12月20日（水曜日）

午前10時～午後0時

2. 場 所

大阪市建設局 第10・11共通会議室

大阪市住之江区南港北2-1-10

3. 参加者

【委員】

鴻原委員、長瀬委員、山西委員、矢持委員

【協働事業者】

NPO法人南港ウェットランドグループ理事長 高田

大阪市建設局臨港方面管理事務所管理課長 綱

大阪市港湾局計画整備部施設管理課長 角谷

住之江区役所協働まちづくり課担当係長 川井

【事務局】

大阪市建設局臨港方面管理事務所管理課

大阪市港湾局計画整備部施設管理課

4. 議事

- ・ 平成29年度事業中間報告
- ・ 平成29年度事業にかかる目標管理中間報告

5. 議事要旨

「4. 議事」について報告したのち委員から意見を受けた。

委員からの主な意見

【湿地の保全・再生に関して】

- ・ 野鳥園の干潟は河川水の影響など様々な要素が絡み合い多様な環境を生み出しているという観点を持ちつつ、今後も継続してより詳細に環境のモニタリングを行ってほしい。特に、湿地部の池の塩分測定にあたっては、より測定精度の高い機器を使用することが望ましい。
- ・ 野鳥園の緑地で収集した落ち葉を湿地部に投入する環境改善の取組みは、底生生物や利用鳥類の増加など一定成果も出ており、評価できる。今後はフルボ酸（腐食物質）などにも注目してみてはどうか。
- ・ 環境省が主催した「東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ（注）」の関連自治体の担当者研修会（12月に開催）は、全国の各施設における

課題点などの情報共有や意見交換を行うなど有意義なものであるため、大阪市として継続するのが望ましい。

- ・ NPO法人南港ウェットランドグループ（以下、NPO）と大阪市立大学との「湿地再生プロジェクトチーム」における環境保全の議論内容は、本アドバイザーボードに情報提供してほしい。

【魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成に関して】

- ・ 中学校との干潟のカキ礁に関する環境学習の取り組みは、カキ礁の移動作業（カキを1箇所を集め、鳥の休み場として再利用する）だけではなく、カキ礁に集まる生物の調査も行われており評価できる。今後もこのような取り組みを進めていくとよい。
- ・ 大分県中津干潟で干潟の保全活動をしている団体との交流をはじめ、他水域の干潟や塩性湿地で活動している団体との情報共有や交流は重要であり、トータルコーディネイター育成の観点からもこれを継続するのが望ましい。

【広報活動の充実に関して】

- ・ 新パンフレットの制作にあたり、野鳥園の魅力発信ができるよう、アカテガニやハクセンシオマネキなど野鳥園ならではの貴重な生物や塩性湿地の機能などの題材を取り上げるなど工夫してはどうか。
- ・ 大阪港開港150年記念事業の一環として市役所庁舎1階で行った野鳥園のパネル展示については、「大阪港の発展と環境保全」をテーマにするなど展示内容が非常に工夫されており大いに評価できる。
- ・ 中国の清華大学や上海動物園からの視察団の訪問があったほか、国土交通省による干潟の定量的評価に関わる各種調査も現在行われているが、これら海外からの視察や、干潟の評価の公表などは、野鳥園や干潟の重要性を国際的・国内的にPRするよい機会となり高く評価できる。
- ・ 現在は来園者数の把握はされていないが、来園者数の把握は重要である。防犯と来場者数の概数把握を兼ねる意味で防犯カメラの設置・活用などを検討してはどうか。
- ・ 本委託事業の最終年度である来年度には、これまでの事業総括を行い、その成果を対外的に発信できるようぜひ検討してほしい。

注) 「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ」（以下「EAAFP」）とは、渡り性水鳥とその生息地を保全するための国際的な枠組みであり、現在30の国や団体が参加し渡り鳥の生息状況や保護活動について、情報や技術の交換を行っている。EAAFPのもとには渡り性水鳥重要生息地ネットワーク（以下「ネットワーク」）が組織され、現在113か所、日本国内では野鳥園臨港緑地を含め30か所の生息地がこのネットワークに参加している。